

⑬日本国特許庁(JP)

①実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭54—170926

①Int. Cl.²
B 65 D 5/40

識別記号 ②日本分類
132 C 12

庁内整理番号 ④公開 昭和54年(1979)12月3日
6540—3E

審査請求 未請求

(全 2 頁)

④液体輸送用紙容器

茨木市下穂積1丁目1番2号
日東電気工業株式会社内

②実 願 昭53—69971

⑦考 案 者 吉村厚生

②出 願 昭53(1978)5月23日

茨木市下穂積1丁目1番2号
日東電気工業株式会社内

⑦考 案 者 川上寛二

⑦出 願 人 日東電気工業株式会社

茨木市下穂積1丁目1番2号
日東電気工業株式会社内

茨木市下穂積1丁目1番2号

同

森山康弘

⑤実用新案登録請求の範囲

- (1) 紙容器本体に少なくとも1個の貫通孔を設け、該貫通孔を前記紙容器本体の外表面から孔径約0.01～50ミクロンの微孔を有する気孔率約15～90%の微孔性プラスチックフィルムで被覆閉口して成る液体輸送用紙容器。
- (2) 端縁部に気孔率約15%以下の補強層を形成した微孔性プラスチックフィルムを用いる実用新案登録請求の範囲第1項記載の液体輸送用紙容器。
- (3) 微孔性プラスチックフィルムがポリテトラフルオロエチレン製である実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の液体輸送用紙容器。

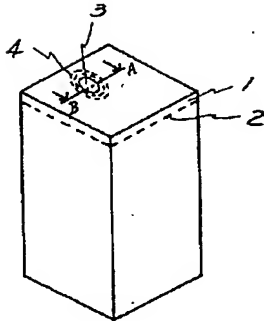
- (4) 微孔性プラスチックフィルムを更に空孔を有する保護フィルムで被覆して成る実用新案登録請求の範囲第1項乃至第3項記載の液体輸送用紙容器。

図面の簡単な説明

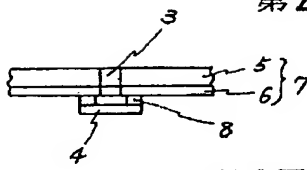
第1図および第6図は本考案に係る液体輸送用紙容器の実例を示す斜視図、第2図は第1図A—B線で切断し矢印方向から見た要部の断面図、第3図乃至第5図は他の実例を示す要部の断面図である。

3……紙容器本体、4……貫通孔、5……微孔性プラスチックフィルム、9……空孔、10……保護フィルム。

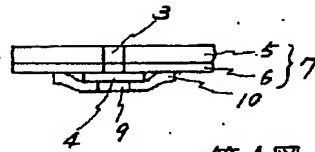
第1図



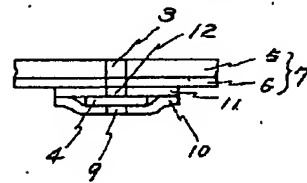
第2図



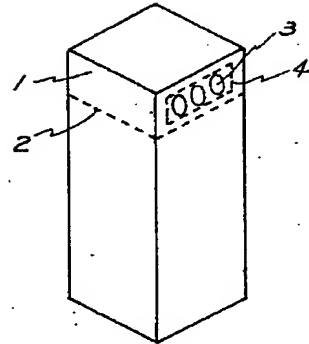
第3図



第4図



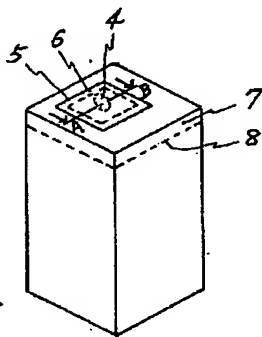
第5図



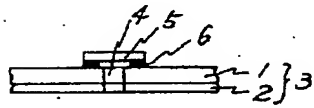
補正 昭53.8.5

図面を次のように補正する。

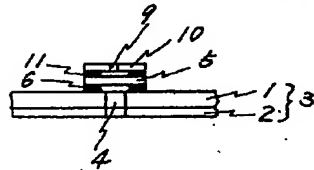
第1図



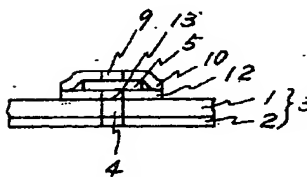
第2図



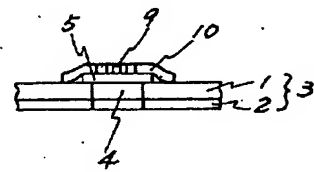
第3図



第4図



第5図



第6図

